

FACT BOOK 2026



Photo by Yoshifumi Kawabata
絵本『せかいでいちばんつよい国』光村教育図書



公益社団法人
シャンティ国際ボランティア会
Shanti Volunteer Assoc.



- 03 シャンティ国際ボランティアについて
- 04 シャンティのあゆみ
- 05 活動地域
- 06 支援の特色
- 07 活動内容
- 08 緊急人道支援
- 09 シャンティの成果と受賞歴
- 10 BOOKS FOR ALLプロジェクト
- 11 組織概要
- 13 シャンティなひと
- 14 イベント、講演会実施事例
- 15 提供可能な広報素材



シャンティ国際
ボランティア会
Shanti Volunteer Assoc.

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
〒160-0015 東京都新宿区大京町 31 慈母会館 2、3 階
代表電話：03-5360-1233
メールアドレス：pr@sva.or.jp
担当：広報・リレーションズ課 鈴木・平島
www.sva.or.jp



シャンティ国際
ボランティア会
Shanti Volunteer Assoc.

シャンティは、1981年からアジアを中心に活動する、日本生まれのNGOです。子どもたちへの本を通じた教育文化支援、国内外の災害や紛争後の緊急人道支援に取り組んでいます。すべての子どもたちに教育の機会を届けるため、地域の文化や対話を大切にしながら、総合的な学びの場をつくっています。

📌 シャンティが目指すもの

「共に生き、共に学ぶ」平和な社会を目指して

シャンティが目指すのは「ちがいを」「多様性」ととらえ、互いに認め合い、対話を通して可能性を見つけることができる社会です。

それは、一人ひとりが心の平和を持つことから始まります。

心の平和とは、自分自身が大切な存在であると気づくこと。大切にしている考え方や生き方をもてること。生まれてきた場所や受け継ぐ文化、言葉に誇りをもてること。課題が複雑に絡み合う社会の中でも、自分らしく生きる選択ができること。

シャンティは教育によって、すべての子どもたちが心の平和と生きる力を育むことができると考えています。



📌 本から生まれる可能性

読み書きができない人は7億7,300万人。紛争、災害、貧困などが原因で学校に通えない子どもたちの学ぶ機会は奪われています。

シャンティは、子どもたちがどのような環境下でも学ぶことができるよう、教育の機会を届けています。本には自ら考え、希望を与える力があります。



01 生き方の選択肢を広げる

本は視野を広げ、好奇心を育てます。本を通して知らない世界を知り、考える力をつけ、新しい生き方を自分で選ぶことができます。



02 自分は何者かを知る

紛争や貧困で家族と暮らすことができない環境下では、先人が残した本が、文化や伝統、自分のルーツを教えてください。



03 文字を知り、知識を増やす

病気のとき、市場で野菜を売るとき、計算や文字の読み書きができないと生死に関わります。本は文字や数、知識を教えてください。

あゆみ

1980年にカンボジア難民の緊急救援活動として、曹洞宗東南アジア難民救済会議（JSRC）が設立されました。1981年の緊急救援活動プロジェクトの終了にあたり、JSRCのボランティアの有志が、シャンティを立ち上げました。



沿革

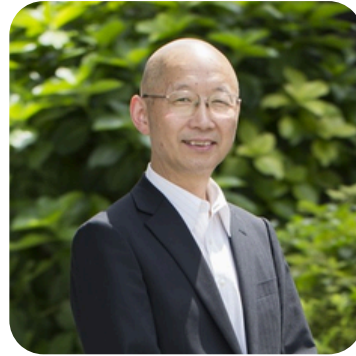
- 1980年
曹洞宗東南アジア難民救済会議（JSRC）設立
- 1981年
曹洞宗ボランティア会（SVA）結成
- 1991年
カンボジア事務所開設
- 1992年
曹洞宗国際ボランティア会（SVA）に改名
ラオス事務所開設
- 1995年
阪神・淡路大震災をきっかけに緊急救援を開始
- 1999年
シャンティ国際ボランティア会に改名
「絵本を届ける運動」を開始
- 2000年
ミャンマー（ビルマ）難民事業事務所開設
- 2003年
アフガニスタン事務所開設
- 2011年
東日本大震災復興支援活動を開始
- 2014年
ミャンマー事務所開設
- 2016年
ネパール事務所開設
- 2019年
ミャンマー国境支援事業事務所開設
曹洞宗と相互協力協約書締結
- 2020年
日本国内事業を開始



カンボジア難民キャンプ（カオイダンキャンプ）の図書館



ごあいさつ



会長

岩林恭英

我々の活動理念は「共に生き、共に学ぶ」です。

まず「共に生きる」ということについて、国・地域・民族・男女の違いを超えて、同じ生命としてお互いを認め合い、シャンティ（平和）な社会を構築してゆこうとするものです。

どこに生まれようと、生命には意味があります。その意味というのは「共に学ぶ」ことによって意義づけることができるのです。大切なことは、どのように学べるかということだと思います。

つまり、教育にアクセスできるか否かによって、人の生き方が大きく変わります。少しでもそのチャンスをつかみ、たぐり寄せることができれば、さまざまな可能性が訪れ、なおかつ主体的にそれを選び取ることができる。

シャンティは、教育文化支援という種まきを継続していくことが、平和への道だと信じています。



事務局長

山本英里

貧困、紛争や災害は、子どもたちから子どもでいられる時間を奪い取ります。今世界では、教育を受けられない子どもが初等教育レベルで6,700万人いるといわれています。また、紛争などで住む場所を追われ、難民や避難民生活といった不安定な生活下で暮らしている人々、子どもたちは、およそ4,300万人におよびます。

現代における複雑な課題解決は、シャンティだけでは容易に成し得ません。シャンティは、これからもより困難な状況にいる人々に寄り添い、生きる上で必要な力を育むことができる教育の機会の推進に力を入れてまいります。

ご支援くださる皆さま一人ひとりの思いを受け止めながら、シャンティの活動を支える市民の皆様との活動連携に加え、これまで以上に同じ目標を持つ様々なアクターの方々、専門機関の方々との連携を強化し、共に取り組む仲間をつくっていきたいと考えています。

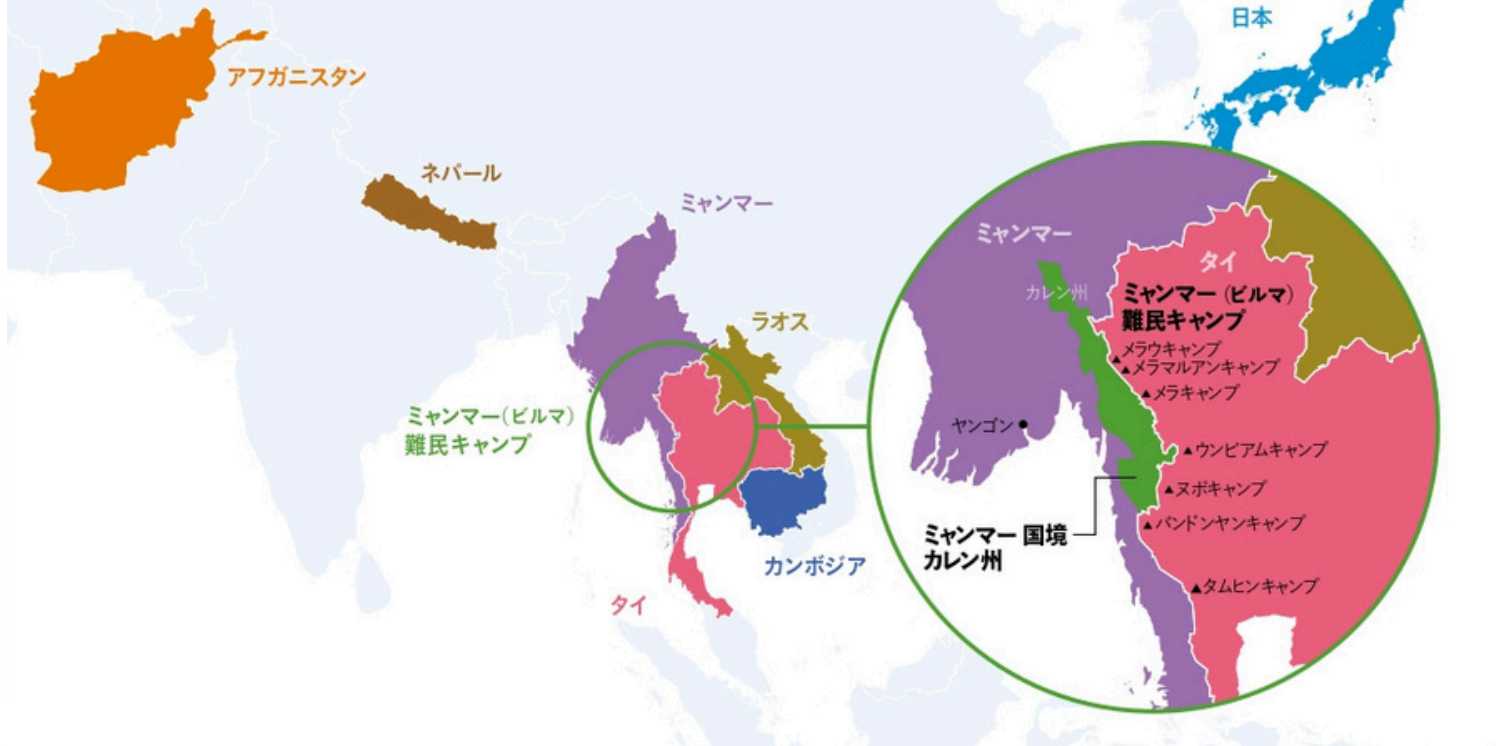
活動地域

専門性を持った職員が活動地内外から、継続的な支援を行います。現地の人々と共に、学びの文化を育てています。

シャンティの活動地域

2024年12月現在、7カ国8地域で教育文化支援を行っています。

カンボジア | 1991年～
ラオス | 1992年～
ミャンマー(ビルマ)難民キャンプ | 2000年～
アフガニスタン | 2001年～
ミャンマー | 2014年～
ネパール | 2017年～
タイ | 1984年～
日本 | 1995年～



📌 日本での活動



絵本を届ける運動

Campaign to Deliver Picture Books

「絵本を届ける運動」は、日本の絵本に現地の言葉に翻訳したシールを貼り、子どもたちが母語で読める翻訳絵本となったものを届ける活動です。

個人でも団体でも手軽に参加することのできる国際協力として、多くの方に長年親しまれ、1999年から40万冊を超える絵本を送り出しました。

日本ではこれまでに約32万人が活動に参加しています。

CRAFT AID

クラフトエイドは、アジアの女性たちが時間と手間をかけて丁寧に手づくりした物を販売するシャンティのフェアトレード事業です。

現地のパートナー団体と共に、刺繍や織りなどの代々伝わる伝統文化や技術を取り入れた商品を製作し、ご紹介しています。



シャンティは多様なルーツを持つ人々が増えていく日本において、どのような人も安心して暮らせるよう、多文化共生社会を目指しています。

2024年からは、東京都豊島区に加え、練馬区でも活動を広げています。

2026年からは豊島区で日本語を母語としない子どもとその家族を対象に、学習支援・相談支援・交流事業を一体的に行う多文化キッズサロンを開設しています。

特色

子どもが学校に通うことは、当たり前の状態ではありません。学校建設や図書館運営など、子どもが安心して学べる「場所づくり」。学校教育や図書館員などの「人」の育成。文字を学ぶことができる「本」を提供。この4軸が揃って、初めて本に触れる瞬間が生まれます。

支援の特色

本を通じた教育文化事業

私たちが目指すのは本に触れる文化づくりと、教育の質の向上です。

そのためには「学ぶための本や教材」、「学びを届ける人」、「安心して学べる場所」、そして「学びと出会うための活動」が欠かせません。

現地の行政や住民と一体となり、継続した教育文化事業を行っています。



01 学ぶための本や教材

紛争が続く地域や少数民族が暮らす地域では、現地の言葉で書かれた本が不足しています。そこで、活動地の人々が読める本や教材を出版しています。



02 学びを届ける人

活動地の人々が学び続けられる仕組みを、行政や住民と一緒に築くことを大切にしています。



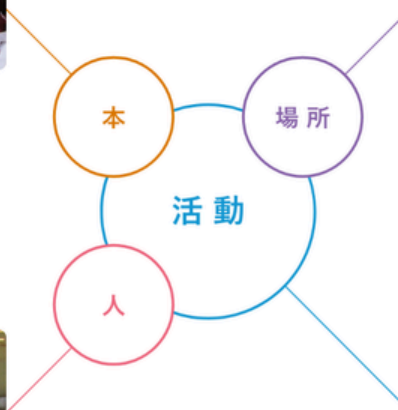
03 安心して学べる場所

住民主体で建設の進行状況を確認し、完成した建物を維持管理します。子どもたちが安全に学べる場所を住民と一緒に作っています。



04 学びと出会うための活動

活動地域では学校に通えず、絵本も見たことがない人が大勢います。学びたいと願うすべての人が参加しやすい活動や雰囲気づくりを心掛けています。



活動内容

家庭の貧しさにより、子どもが働かなければいけない環境。読み書きができないために、良い仕事に就くことができない。長時間労働に従事させられ、学校に行くことができない。このような負の連鎖を断ち切るため、活動を続けています。

カンボジアでのプロジェクト実施例

絵本出版・紙芝居出版

2021年末までに129タイトル37万冊の絵本、44タイトル3,500部の紙芝居出版を行いました。

(出版事業は2016年終了)

2025年末までに日本から絵本を20万冊以上届けました。



研修会、 教員や図書館員指導

1993年から、学校や州教育局の要請により教員を対象とした研修会を実施しています。研修会にはのべ2万4000人を超える教員、図書館員が参加しました。

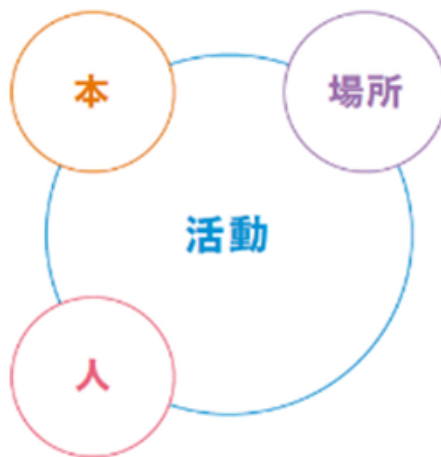
また、活動が対象地域に定着するために州教育局の職員の育成も行っています。

2008年からはカンボジア教育省の職員の育成も行い、カンボジア全土の小学校で適用となる、**図書館ガイドラインを協働作成**しました。点から面へ活動を広げる取り組みとなっています。



「学びを届ける人」の育成

教員や図書館員がそれぞれ工夫した読み聞かせを披露する全国おはなし大会を1995年から毎年開催し、約2,600人が参加しました。



学校建設・図書館建設

1991年に国境帰還難民及び国内避難民の定住促進のため、スタートした学校建設事業。州教育局と協力し学校建設地の選定を行います。

子どもたちが楽しく学び、未来に夢を持てる学校にするため、地域の人々が計画から盛土作業などのプロセスに関わる「**住民参加型**」の学校建設を行っています。

2025年末までに300校以上の学校を建設しました。



図書館活動を中心とした コミュニティラーニング センター (CLC) 事業

子どもからおとなまでが集い、学べる生涯学習の拠点としてコミュニティ図書館(CLC)を設立し、図書館活動を中心に、日常的に本や文字に触れる機会を提供することで識字の向上を図っています。また、住民のニーズに合わせ、識字教室の実施、生活向上のための農業や衛生研修を開催しスポーツや文化活動にも力を入れています。

公立幼稚園における幼児教育の質改善事業

シャンティが取り組んできた学校図書館活動の経験を活かし、子どもたちが「**楽しく、遊びや経験を通して学ぶ**」幼稚園づくりを目指した教員研修を行っています。

緊急人道支援

人々の尊厳を尊重し1日でも早く日常生活を取り戻せるよう、迅速かつニーズに合った支援を行っています。特に、どのような状況であっても子どもたちの学びの権利と機会を守る「緊急下の教育」、危機的状況の中で傷ついた子どもたちの心を癒す図書館活動を通じた子どもの居場所を推進しています。

緊急救援活動

緊急、復興、防災・減災支援

発災直後は当面の生活を過ごすために必要な食料、調理器具などの生活物資を配布します。また、長期の避難生活などにおいても、シャンティは基本的人権を守るための最低基準を定めた国際基準（スフィアスタンダード）に則り、活動を行っています。



緊急人道支援の国際基準

世界各国の政府や国連機関などの幅広い組織・機関により作成された、緊急時の人道支援において最低限保証されるべき活動基準。基本的人権を守るために食料や衛生の最低基準が定められており、教育もその一項目に該当する。

プロジェクト事例

緊急支援物資を迅速に配布

活動例：
アフガニスタン東部地震
2025年8月31日にアフガニスタン東部で発生した、マグニチュード6.0の地震に際し、緊急人道支援に取り組みました。



被災者から被害の状況を聞き取るスタッフ



テントを積んだトラックが被災地に到着

1

現地調査

現地調査を通して、発災当時の状況や支援から取り残されている人々の苦境を明らかにします。

被害が深刻な地域の多くがパキスタンとの国境に近い山岳地帯に位置しており、地震による土砂崩れで被災地に通じる道路が寸断されるなど、救助隊が到着できていない地域もある状況でした。

2

聞き取り調査、現地NGOとの連携

発災2日後から現地調査を開始。聞き取り調査も丁寧に行います。それぞれが抱えている悩みや課題を聞き、現地パートナーNGOと共に支援を行います。

3

子ども・女性支援

教育支援、女性の生計支援などニーズに沿って活動

3

物資の配布

今回の活動地域は、被害が最も深刻なクナール県ヌルガル郡の村の一部。

夜間には気温が低下する中、多くの家屋が倒壊し、生き残った人たちは野外で過ごしており、シェルター物資を必要としていました。そこで支援チームは雨風をしのぐためのテントを調達し、被災した村々に届けました。

その後、食料・生活必需品の配布も実施しました。

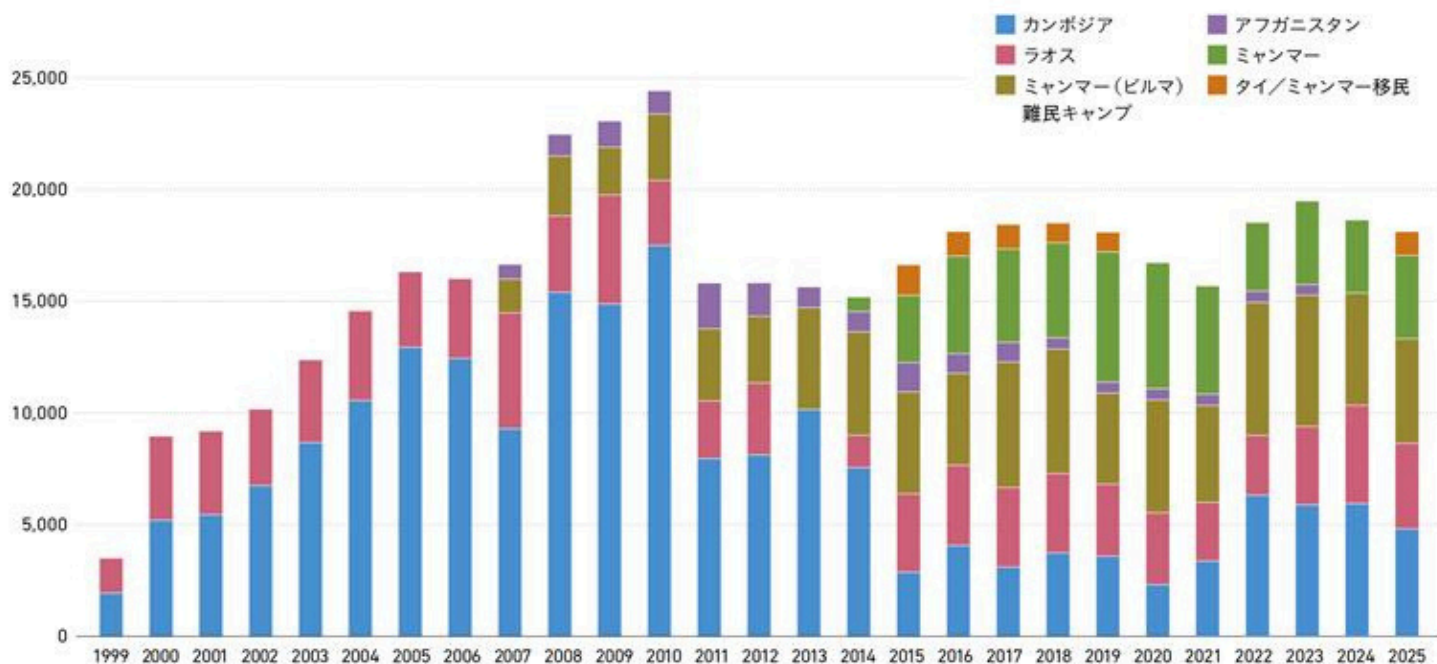
成果と受賞歴

1981年の創立以来、「共に生き、共に学ぶ」ことのできる平和な社会を目指し課題と向き合ってきました。現地と共に積み上げてきた実績は、ゆっくりと確実に広がっています。

これまで届けた絵本

合計 **437,460** 冊 (2025年度末まで)

タイトル数：352タイトル
 出版社数：46社
 参加者数：のべ358,967人
 参加企業・団体数：のべ3,847件



成果、受賞歴

これまでの支援活動実績 (2025年末まで)

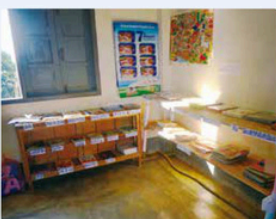
実績1 学ぶための本や活動

	2025年	通算
絵本・紙芝居出版	11タイトル	698タイトル
届けた絵本	18,109冊	437,460冊
図書館利用者	459,979人	1,766万人



実績3 安心して学べる場所

	2025年	通算
学校建設	10校	475校
図書館・図書室設置	25館・室	1,096館・室



実績2 学びを届ける人

	2025年	通算
研修参加者	123回 / 2,836人	1,567回 / 65,300人



実績4 緊急人道支援

	2025年	通算
緊急救援出動回数	9回	126回
	・海外7回	・海外89回
	・国内2回	・国内37回



国内における主な受賞歴

- 正力松太郎賞(1984年)
- ソロプチミスト日本財団賞(1985年)
- 外務大臣賞(1988年)
- 毎日国際交流賞(1994年)
- 東京都豊島区感謝状(1995年)
- 防災担当大臣賞(2004年)
- 兵庫県知事感謝状(2005年)
- 第七回井植記念「アジア太平洋文化賞」(2008年)
- 宮城県社会福祉協議会感謝状(2011年)
- ESD岡山アワードグローバル賞(2015年)
- スポーツ庁長官感謝状(2019年)
- 第14回かめのり賞 特別賞(2020年)
- 第28回読売国際協力賞(2021年)
- 第25回地球倫理推進賞(2021年)
- 文部科学大臣賞(2021年)
- オッケンデン国際賞(難民・避難民のための事業部門)(2023年)

BOOKS FOR ALL

本の力を、
生きる力に。

私たちは活動を積み重ねる中で、国や時を越えても変わらない本の力を経験してきました。シャンティは子どもたちの成長において、本の力が欠かせないと考えています。1998年に国連で採択された「子どもの権利条約」においても、「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」を保証すると明記されており、シャンティは図書館が子どもの権利を保障する場のひとつであると考えています。

未来を切り拓いたストーリー

スラム出身の私でも世界に道が開ける

オラタイ・プーブンラーブ・グナシーランさん
(タイ/タイ大使館 一等書記官)

私が図書館で絵本と出会ったのは4歳のころ。昼間は学校、夜はお店や家事の手伝いがあり、睡眠も5時間とれるかどうかの大変忙しい毎日でした。その合間に訪れる図書館が私の心のよりどころになりました。
毎日図書館に行くのが楽しみで、当時約1万冊あった絵本、小説、参考書などはすべて、端から読みきってしまいました。特に夢中になったのは旅行記でした。自分もいつかこのスラムを抜け出して、まだ見ぬ世界を見たいと強く、夢みるようになりました。



その後、中・高時代にシャンティの奨学金を受け、高校2年生でアメリカへ留学しました。高校卒業後は、タイの名門といわれる国立チュラロンコン大学文学部に主席に近い成績で合格を果たしました。そして、大学1年生の時に、倍率約100倍のタイ政府の外交官養成試験に合格したのです。
現在、私は在モスクワのタイ大使館に勤務する一等書記官です。得意の英語、フランス語、ロシア語を生かして、将来、アメリカやオーストラリア、または日本で外交官の仕事をしていけたらいいなと思っています。専門であるロシアと各国を比較してみたいとも思っています。

本の力が私に夢を与えてくれた

スニター・ビンマソンさん
(ラオス/国営テレビ局アナウンサー、ニュースキャスター)

小学5年生の時に初めて「子どもの家」を訪れました。図書館の本は家に持ち帰ることができ、友だちもできる。そんな図書館の魅力に引かれ、足しげく通う私が、もっとも心引かれたのは、図書館の先生による読み聞かせでした。やがて自分自身が読み聞かせをするようになり、本を読む力だけでなく、話をする力も身に付いていきました。

図書館は本を読めるだけでなく、さまざまな行事や活動など、人々の生活をよりよい方向に変える、子どもの才能を掘り起こすものがたくさんそろっています。アナウンサー、レポーターそしてラジオのDJにさえなれると私に教えてくれたのは、ほかでもない図書館でした。

現在はラオスの国営テレビ局のアナウンサーとしてニュース原稿を読んだり、子ども番組の司会などを行っています。テレビキャスターの仕事だけでなく、DJとして10代の若者たちにメッセージを届けたり、ラオスの伝統料理を紹介する番組のレポーターの仕事も精力的にこなしています。

本当にやりたいことは、子どもや青少年に関わる仕事。だから一番の夢は、「子どもの家」の所長になることなんです。



協力企業



組織概要

シャンティは、1981年にタイ国内のカンボジア難民キャンプでの支援活動を開始して以来、44年目を迎えました。アジアの子どもたちへの教育支援や緊急救援支援に取り組み、現在ではアジア7カ国・8地域に活動が広がっています。

名称	公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会 Shanti Volunteer Association
設立年月	1981年12月10日
事務所	〒160-0015 東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3階 TEL：03-5360-1233（代表）FAX：03-5360-1220
代表者	会長／若林 恭英
職員数	145人（国内採用職員41人、現地採用職員104人） ※2026年4月1日時点。SAFとインターンは含まず。
事業内容	図書館事業／学校建設事業／緊急救援
事業連携	外務省「日本NGO連携無償資金協力」、国際協力機構(JICA)「草の根技術協力事業」、ジャパン・プラットフォーム(JPF)
後援	文部科学省、公益社団法人日本図書館協会、公益社団法人読書推進運動競技会



2013年3月、NGOがアカウントビリティの状態を自己診断する「アカウントビリティ・セルフチェック2012」を実施し、「アカウントビリティ・セルフチェック2012」の認証マークを取得しました。



税制上の特定公益増進法人に該当し、当会への寄附・募金につきましては税制上の優遇措置（寄附金控除）が受けられます。

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会は、当会監事による監査および田中義幸公認会計士事務所による財務諸表の外部監査を受けております。

3 シャンティとSDGs

シャンティは1981年の設立から一貫して、持続可能な未来づくりには教育が欠かせないと考えています。

たとえば、教育の機会を得られず読み書きや計算ができないと、生死にかかわる危険に遭うことがあります。また、就業の機会も限られ、貧困から抜け出すことが難しくなります。

このような連鎖を食い止めるために、すべての人には学ぶ機会が必要です。

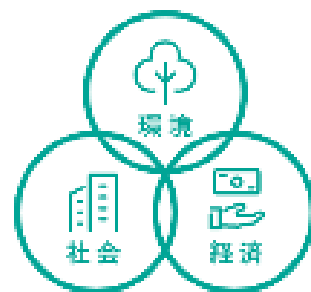
シャンティはゴール4「質の高い教育をみんなに」の達成に向けて本を通じた教育文化活動を行っています。



3 講演

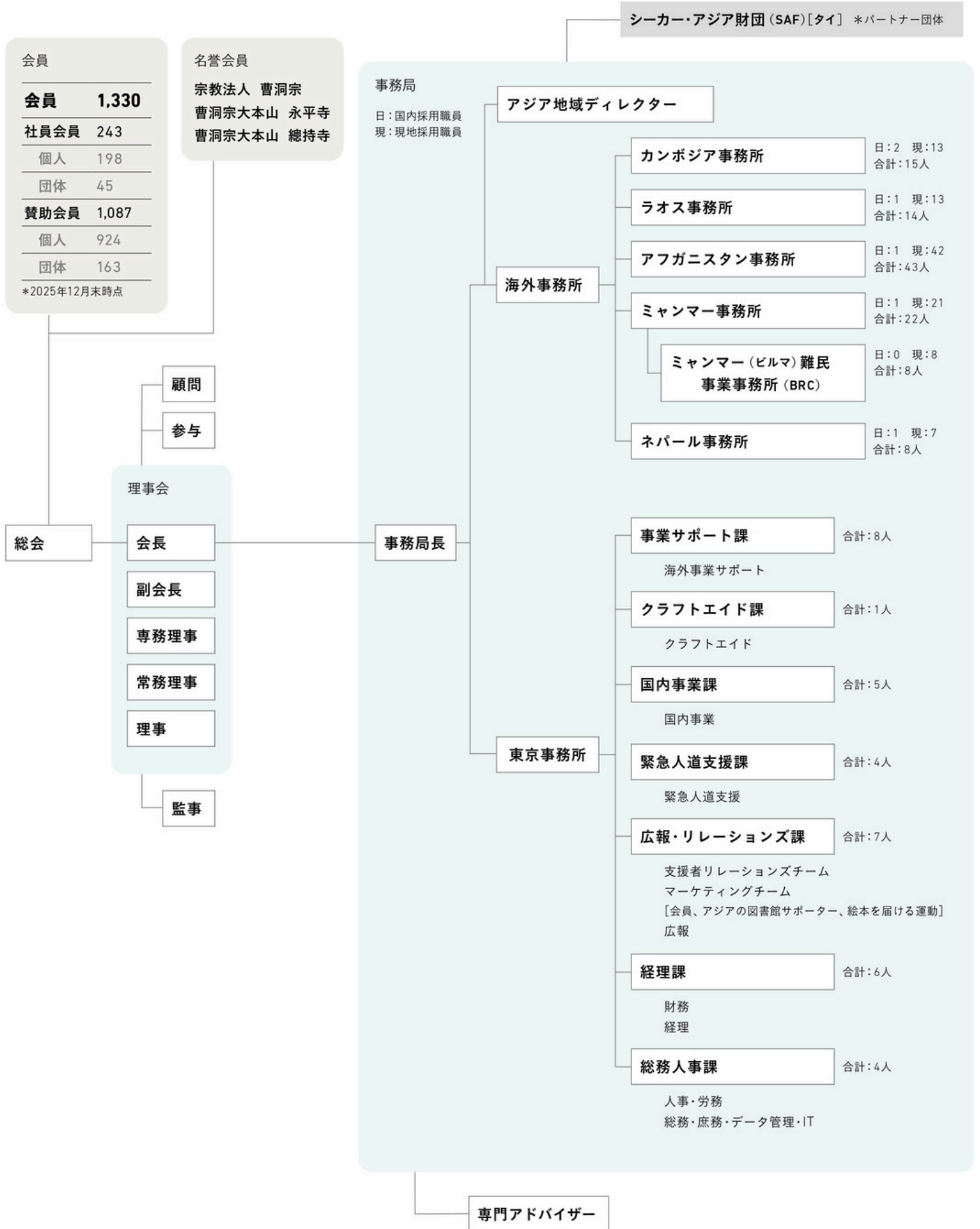
図書館はSDGsを達成するための、重要な機関の一つです。

目標16「平和と構成をすべての人に」に明記された情報への公共アクセスの確保により、人々が情報を活用して必要な知識を得ることで、生活を向上させることができます。



組織概要

シャンティは、1981年にタイ国内のカンボジア難民キャンプでの支援活動を開始して以来、44年目を迎えました。アジアの子どもたちへの教育支援や緊急救援支援に取り組み、現在ではアジア7カ国・8地域に活動が広がっています。



シャンティなひと

国際協力のプロフェッショナルであるシャンティの職員が、それぞれのテーマで講演会などイベントに登壇することが可能です。



おかもとわこう 専務理事
岡本和幸 (千葉県・真光寺住職)

四谷東長寺にて都市寺院のあり方を模索し、千葉県真光寺では樹木葬墓苑開設、上総自然学校を主催、川原井の里山里田を守る会を作り地域おこしに挑戦中。
2017年4月より現職。



やまもとえり 事務局長
山本英里 兼 アフガニスタン事務所 所長

2001年にインターンとしてタイ事務所に参加。2002年、ユニセフに出向しアフガニスタンで教育復興事業に従事。2003年より、シャンティのアフガニスタン、パキスタン、ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ、カンボジア、ネパールでの教育支援、緊急救援に携わる。2019年7月より現職。

アジア南太平洋基礎・成人教育協議会（ASPBAE）理事。特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム共同代表理事。



たまりきよたか
玉利清隆 事務局次長

民間企業、青年海外協力隊、国際NGOなどを経て、2014年入職。
カンボジア事務所所長、ラオス事務所所長として現地での事業推進に従事した後、東京事務所へ。

2026年4月より現職。



いしづかさき
石塚咲 緊急人道支援課 課長

青年海外協力隊、民間企業を経て、2018年入職。
カンボジア事務所で幼児教育事業に従事し、2023年から東京事務所で事業サポート課に。ラオスとカンボジアの事業に取り組んで後、2024年から国内事業課へ。

2024年9月より現職。



すずきあきこ
鈴木晶子 広報シニアマネージャー 兼 国内事業課 課長

2005年緊急救援室に入職。国内外の災害支援に従事。2007年よりカンボジア事務所駐在。100をこえる小学校の図書室を整備。2010年よりタイ国境ミャンマー（ビルマ）難民キャンプの図書館事業に携わる。2015年より広報・リレーションズ課課長を経て、2023年より現職。

イベント、講演会

シャンティでは、翻訳絵本づくりを行うワークショップや、アジアの子どもたちを取り巻く環境について紹介する講演会など、さまざまなイベントを年間を通じて実施しています。

📌 「絵本を届ける運動」ワークショップ

「絵本を届ける運動」は、誰でも気軽に参加できる、国際協力の方法です。
みなさんの職場や、イベント内での実施が可能です。
夏休みには、「ボランティア参加証明」をお渡しする親子向け、中高生向けのワークショップも実施しています。

【内容例】

- ・アジアの子どもたちの暮らしについて紹介
- ・「絵本を届ける運動」について紹介
- ・翻訳絵本づくり
- ※最少催行人数：5人～
- ※所要時間：90分～120分程度



📌 講演

国際協力のプロフェッショナルであるシャンティの職員が、それぞれのテーマで講演会に登壇します。

【テーマ例】

- 「絵本を手にした子どもたちの今～絵本を届けてきた20年～」
- 「難民を受け入れる社会とは」
- 「教育支援現場を見続けて38年～アジアのこれまでと未来を語る」
- 「学ぶ力が、生きる力に」



📌 そのほかイベント例



提供可能な広報素材

シャンティをご取材いただく際に、ご提供可能な広報素材をご用意しています。
ご入用の際には広報・リレーションズ課までお問合せください。

📌 データ・資料

各資料は下記よりご確認いただけます。

●年次報告書 2025年度版

<https://sva.or.jp/wordpress/wpcontent/uploads/2026/05/2025annualreportJP.pdf>

●プレスリリースなど、シャンティからのお知らせ

<https://sva.or.jp/topics/>

●シャンティ関連図書

<https://sva.or.jp/publication-category/svabooks/>

●その他出版物

<https://sva.or.jp/outline/#publication>



広報誌『シャンティ』

📌 写真提供

各国の写真をご提供可能です。ご相談ください。



📌 各種SNSでも最新情報をお届けしています



<https://www.facebook.com/ShantiVolunteerAssociation>



https://twitter.com/sva_1981



<https://www.youtube.com/user/svapr5>



シャンティ国際
ボランティア会
Shanti Volunteer Assoc.